

# みんなで作るコミュニティスクール

発行：長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

No. 26 (R 5 (2023). 11)

信州型コミュニティスクールかわら版（旧生涯学習プログラムガイド集）ホームページ URL：  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>

## 学校を核として広がるつながり 学校×地域 地域×地域

新学習指導要領では、これからの時代に求められる教育を実現するために、より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会が共有し、学校と社会が連携・協働して子どもたちを育てていく「社会に開かれた教育課程」の実現が重要とされています。

学校と社会が連携・協働していくためには当事者同士のつながりが重要です。教職員と地域ボランティア。子どもと地域ボランティア。そして、協働活動を行う地域ボランティア同士のつながりが大切です。

今回の信州型コミュニティスクールかわら版では、協働活動の当事者である教師・子ども・地域住民がつながりを広げていった事例を紹介します。



### 児童や大人の主体性を引き出す仕掛け（上田市立北小学校）

北小学校では、地域住民が、地域学校協働活動に楽しそうにかかわる姿がたくさん見られます。北小学校の取組から児童や大人の主体性を引き出すためのアイデアが見えてきました。

#### ○児童と大人と一緒に話し合う学校運営委員会

今年度最初の学校運営委員会で、児童会の役員や有志の6年生が運営委員と話す機会がありました。児童が児童会活動のことやクラスの活動でお願いしたいことを伝え、大人から意見をもらいました。

地域の人とかかわる機会があまりなくて、学校にたくさん協力してくれている地域の人のもっと知りたいと思いました。地域の人にインタビューして、お昼の放送で流したいと思います。（児童の提案の一例）



運営委員会の様子

大人が児童の意見を真摯に受け止めて、知っていることやできそうなことを伝えたり、提案したりすることで、活動のイメージが広がっていきました。

場の親和性や心理的安全性が保たれ、「ここでは何を言っても大丈夫」と感じてもらえるよう配慮しました。教頭先生や6年生の先生と何度も打ち合わせて次のようなことを工夫しました。

- ① 運営委員の刷新(できるだけ保護者世代にかかわってもらいたい)
- ② 自己紹介でアイスブレイクを取り入れ、やわらかで温かい雰囲気づくり
- ③ 会議室ではなく、せまくてもコミュニティルームを使用
- ④ お茶やお菓子等でリラックス

私たち大人は、子どものことを「守るべき存在」であり、ともすると「何かをしてあげる存在」と捉えがちですが、子どもたち一人一人はちゃんと考え、意見を持ち、社会の役に立ちたいと思っていました。思い切って子どもたちに参加してもらって本当によかったです。(コーディネーター)



#### ○地域住民と職員が一緒に学ぶ研修

救急救命講習や非違行為防止研修には、学校職員だけでなく地域住民も一緒に参加して学びます。クラブ活動では、講師を地域住民が担当しているので、万が一のときのために、講師にも救命方法を知ってもらおうと、救急救命講習への参加を呼びかけたのが始まりでした。一緒に活動する機会を意図的につくることで、学校職員と地域住民のつながりが強まりました。また、コーディネーターは、「先生方の負担にならないように、新しい活動を増やすのではなく、今ある取組の中で学校職員と地域住民が一緒にできることを考えました」と話していました。

コーディネーターと話していると、「学ぶ大人の背中を見せたい」、「大人が学びを楽しんでいる姿を見せたい」という言葉をよくお聞きし、印象に残りました。どの活動でも、次のような目的意識が共通していると感じました。

- 学校を、児童にとっても大人にとっても居場所にする
- 大人が児童へ支援するだけでなく、かかわる全ての人が充実感を得られる活動にする

このことが、児童や大人の主体性を引き出し、活動が継続し、充実することにつながっているのではないのでしょうか。

(東信教育事務所生涯学習課 指導主事 馬場 直樹)

## 運営委員会に参加するみなさんと教職員がつながる場づくり

- ・地域の方と学校の先生方が話をする場がなかなかつukれないんです。
- ・管理職の先生以外の職員の方と面識がなくて教頭先生経由です。
- ・それぞれの活動は充実してきていると感じるのですが、一緒に取り組む人の横の広がりがあまりないんです。

これは、今年の研修会に参加していた先生方や地域住民の方、参観をさせていただいた学校運営協議会（委員会）で何度か耳にした悩みや、現在の課題です。みなさんが関わっている学校や地域でも、このような悩みがありませんか。このことに対して一つの可能性となる取組を紹介します。

### 工夫1

#### 運営委員会の後におしゃべりタイム



長野市立松ヶ丘小学校では学校運営委員会に担任の先生方も自由参加という形で参加することがあります。そして、会の中では担任の先生が直接、子どもたちへの願いや、自分の構想について自分の言葉で語る場面がありました。このように「直接語りあう」ということは、「願いを共有する＝何のために取り組むかを共有する」上でとても大切なことかもしれません。そして、運営委員会が終わると、先生方と運営委員会に参加



「関わる」ことを大事にしたいです。子どもたちも職員もともに活動をし、話をし、地域の方のやさしさを感じています。

もたちへの願いや、自分の構想について自分の言葉で語る場面がありました。このように「直接語りあう」ということは、「願いを共有する＝何のために取り組むかを共有する」上でとても大切なことかもしれません。そして、運営委員会が終わると、先生方と運営委員会に参加

りあう」ということは、「願いを共有する＝何のために取り組むかを共有する」上でとても大切なことかもしれません。そして、運営委員会が終わると、先生方と運営委員会に参加

するみなさんとで「おしゃべり」が始まります。ここでは、クラスで考えている協働活動について話をするのです。この時間は「打ち合わせ」といわれる時間かもしれませんが、しかし、それ以上に「信頼関係を築く」時間となっているのではないのでしょうか。顔が見える話をすることによって互いが自然と心をひらき、よりよい連携・協働につながるのではないのでしょうか。



### 工夫2

#### 運営委員会に参加する関係者を増やしてみる

松ヶ丘小学校では運営委員会に委員だけでなく、農業や公民館活動、裏山での活動に関わる方など、実際に協働活動に関わる多くの方が参加をしています。学校や子どもたちと関わりたい関係者がどんどん参加できる形も会の活性化につながるかもしれませんね。

#### ポイント

- ・自由参加で先生方も参加
- ・直接顔を合わせた「おしゃべり」
- ・関係者を増やしていく運営委員会



（北信教育事務所生涯学習課指導主事 菅原 勇介）

## わくわく人権みんなの樹業（王滝村立王滝小学校）

王滝村コミュニティスクールに関わる地域学校協働本部「王滝っ子応援団」の専門部の1つ「わくわく人権部」が進める活動の1つです。朝の15分、1時間の授業、講演など、様々な形で取り組んでいます。

大事にしていることは大きく2つ。「大人と子どもがいっしょに学ぶこと」「終わった後の振り返りを充実させること」です。  
【テーマは「十人十色」(令和4年9月の授業)】

グループごとに自分の好きな色とその理由を発表し合い、お互いの考え方や大事にしているものの違いに気づくことをテーマとした学習でした。児童、先生、地域の方が混ざったグループで、お互いの考えをうなずきながら聴き合っていました。うまく発表できなくても、地域の方が優しく見守っていてくれたり、6年生がそれとなく声をかけてくれたりして、子どもたちが安心して参加している様子が印象的でした。



【授業後の振り返り】(参加した地域のみなさんによる振り返り)

「6年生が自分の考えをしっかりと言えるようになって、リーダーシップを発揮できるようになってきたね」

「人の話を聴いて、考えて、発表して。この繰り返しで人権感覚を磨いていくことが大人も子どもも大切だよね。」

授業後の振り返りで参加者それぞれが思いを語ることで、子どもたちの変化を共有し、自分の学びを振り返る場となっていました。また、授業の進め方や、広報について等、運営上の課題についても意見が出されていました。

【令和5年度の新しい取組に向けて(令和5年9月1日 部会)】



この日は新たに「防災と人権」をテーマに授業をするための部会が開かれました。1984年9月14日の長野県西部地震。当時の記憶が鮮明に残っている部会の皆さんから、初めて聞く体験談がたくさん語られました。語り合いながら、「相手の立場になって考える」という大事な視点が見えてきました。参加した方が自由に語りながら、課題を見つけ、授業を作っていく。この2時間の様子はとても刺激的でした。

『事前の部会⇒授業づくり⇒授業本番⇒振り返り』 このサイクルが地域と学校とで回り続け、子どもたちと大人がともに学び続けています。

(中信教育事務所生涯学習課 指導主事 大工原 雅将)



今年度開催した講座の中から、学校と地域との協働活動に関わる方々に受講していただいた講座をご報告します。

## ○令和時代の“学校を核とした地域づくり”

ハイブリット開催  
9月8日(金)

### ○講義

演題「地域との協働による魅力ある学校づくり」

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本 悠 氏

### ○対談

演題「未来志向で考えるこれからの“学校を核とした地域づくり”」

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事 岩本 悠 氏

国立大学法人信州大学 教職支援センター 准教授 荒井 英治郎 氏

この講座では魅力ある教育による地域創生に従事する岩本悠氏と望ましい教育制度のあり方をデザインする荒井英治郎氏との対談等から、これからの学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進める上でのポイントにつ



いて考える機会として講座を設定しました。講義では、学校を核として地域がつながり、大人と子どもが一緒になって学び合う土台作りのお話をいただき、対談では講義を踏まえ、地域や学校がどうすべきかを考えるきっかけとなりました。

### 受講者アンケートから

- ・岩本先生の実践事例を通して、地域と学校をつなぐためのヒントをいただけた気がします。また、どのように協働体制を整えていったのか、参考になりました。
- ・実質性、多様性を持ち込むことで活性化をはかるという見方が新鮮でした。
- ・地域と学校との関わりは多くの人に関わるからこそ複雑で、ご講義の最後にお話があったように、一言で協働というけれど、そこに至るのにはとてもむずかしいという思いを持っています。学校の現状を考えたときに、地域との協働とははたしてどのような形がよいのか悩む状態です。
- ・精力的な岩本先生、それを受講者にわかりやすくまとめていただいた荒井先生のおかげで、「地域学校」について現場で生かす方向性を自分の中で少し作ることができました。主体的な大人の相似形としての子どもたち、となるような自分でありたいと思いました。ありがとうございました。

令和6年度もたくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

(長野県生涯学習推進センター 専門主事 望月 ゆかり)